

# 令和8年度 学校「学ば力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：35507

「学ば力」	
成果	課題
◇「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」(全国学力・学習状況調査)の問いに対して肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、進んで学習に取り組む意識が高いことがうかがえる。また、「自分の意見を進んで発言しようとしている」生徒の割合(札幌市共通指標アンケート)が、50.5%(R5)⇒64.3%(R6)⇒63.4%(R7)と肯定的な回答がR5年度より増えており、自ら発信する意欲が高まっている。	◇「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。」生徒の割合(札幌市共通指標アンケート)が、61.2%(R6)⇒56.6%(R7)と低下しており、時間を上手く使えていないという現状が見られた。また、「自分で計画を立てて勉強している。」生徒の割合(札幌市共通指標アンケート)が、57.3%(R6)⇒53.1%(R7)と低下している。以上のことから、自らの課題を考え、把握し、限られた時間の中で計画的に学習を進めていく力の育成が必要と考える。
「学ば力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。」生徒の割合(札幌市共通指標アンケート)が89.9%(R6)⇒89.7%(R7)と他者の意見を受容する意識は高い。「意見を発信する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている」生徒の割合(札幌市共通指標アンケート)が76.4%(R6)⇒75.6%(R7)と、例年並みであった。情報を伝える上での工夫や他者意識を更に向上させていきたい。	

「学ば力」の育成のために着目する資質・能力

## 「多様な他者と協働しながら試行錯誤し、共に学びを深めようとするたくましさ」

課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
<p>(1) 相互理解を生み出す対話の場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業や総合成果発表会を通じて、<u>自分の意見を伝えたり、他者の意見を聞いて互いのよさを認め合ったり、他者の意見を参考に自分の考えを見直したりする機会を充実させる。</u></li> </ul> <p>(2) 学びの見通しをもち、失敗から学ぶことができる場の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が探究するに値する課題提示、授業の仕掛けを工夫する。</li> <li><u>自己決定の場を設け、多様な他者との協働的な学びの中で、ICTのよさを生かした授業を展開する。</u></li> </ul>	<p>① 生徒会活動の充実 ※パートナー校の児童会と連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>生徒総会や各種行事において、直接体験を味わう機会や、仲間と試行錯誤しながら目標を達成する場を生み出す。</u></li> <li>Google formを用いた全校アンケート等を活用し、<u>行事や学校のきまりの見直しなどを生徒の力で行っていく。</u></li> </ul> <p>② 個性を認め合う道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>生徒が自らの考えを発信し、互いを認め合える授業の展開。</u></li> </ul>
「学ば力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇主に(2)について「生成AIパイロット校事業」の取組を通して、学習場面における生成AIの利活用事例の創出を目指す。学びの見通しの設定や多様な視点からの考察、他者との協働的な学びの場面に生成AIを積極的に利用し、試行錯誤しながら学びを深めていく場を生み出す。</p> <p>◇主に①について、学校行事や生徒会活動の取組の中で、Googleformを活用する場面を設け、広く生徒の声を反映した合意形成を可能にしていく。また、昨年度に引き続き、本校生徒会とパートナー校の児童会をオンラインミーティングでつなぎ、お互いの取組を交流する場を年3回程度設定する。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

